

俗悪でこそないが、これも小唄を狙つた帝キネ
獨得の小唄映畫の一種である。「籠の鳥」程若い
男女の心を削る何ものも持つて居ないが、詩的な
哀愁さを誘ふには充分である。それ女譚りとし
ては多くの不満がある。お照に對する恒塵々び
吾作の慙も余りに軽く、そうして淡く取扱つて
ある爲め譚りの力を めるにやらない。松本英
一氏の監督はこうした映畫に重要な要素たるセ
ンナメンタリズムを適度に盛つては居るが、小
唄の場面が如何にも小唄そのものに捉はれ過ぎ
て所謂小唄映畫の型を脱し得ないのは遺憾であ
る。松本泰輔氏の勇造は「大なよ」同様巧みな
扮装で神妙に演じて居る。鈴木信子嬢のお照は
扮装がさつ過ぎたせいもあるが、稍々哀愁味が

足りないと思ふ。里見明氏の吾作は輕妙は演技
で全篇に一脈のユーモアを加味させて居る。撮
影及びロケーションは美しく詩的情緒を味ふに
ふさはしき出来である。

—— 山本 綠葉 ——

興行價値——嘗つて小阪時代映畫で製作されて
好評を博した譚りではあるし、帝キネ得意の小
唄映畫であるから、小唄氣分を慕ふ若い男女を
吸集する事受合である。(九月三日 大阪真邊
劇場封切)